



6

湧水の復活（水の循環）

目標

水の循環を確保し、浸水被害を防止すると共に、湧水の復活を目指します。

指標	現状値 (平成17年度)	目標値
市内湧水の箇所数(箇所/年)	26	
湧水湧出量(代表地点) (m ³ /日)	A地点 280	
	B地点 180	
	C地点 1,300	
1人当たり上水使用量(/日)	318	
公共施設雨水利用施設(箇所)	15	
公共施設雨水貯留浸透対策量 (m ³)	40,685	平成22年度 平成27年度 55,000
下水道雨水貯留浸透事業数 (箇所)	15	平成22年度 19 平成27年度 20
開発による雨水流出抑制対策量 (m ³)	243,643	
家庭雨水貯留槽設置数 (基)	330	平成22年度 600 平成27年度 850

湧水湧出量の代表地点は、A地点：龍池弁財天（小仙波町4丁目）、B地点：八幡神社（大字小堤）、C地点：青林寺付近（大字鯨井）。

共通理念

雑木林や空き地等の減少、道路や駐車場の舗装化などにより浸水機能が低下し、湧水量が減少しつつあります。一方、近年多発する集中豪雨時には、地形的に低い箇所へ短期的に雨水が集中して、各地区で浸水被害が発生します。

節水や雨水の一時貯留、地下浸水の施策などを通じて、水の循環を確保し、都市化される前には市内各所に見られていた湧水の復活を図ります。



具体的取組

6-1 節水対策（水を大切に作る）

公共施設における節水対策

- ・公共施設の水道施設の節水型への改善を推進します。

市民・事業者への啓発

- ・広報川越や上下水道局だよりにより、節水に関する日常生活での工夫や改善等について啓発を図ります。

上水道の漏水防止

- ・貴重な水の有効利用の観点から漏水調査を継続して実施し、漏水の早期発見、修理に努めます。

6-2 雨水貯留施設の整備及び保水・遊水機能の確保（水をためる）

公共・公益施設等の雨水貯留施設の整備

- ・学校の校庭、駐車場、道路、公園等を利用した雨水貯留浸透事業を推進します。



南大塚駅南口の雨水貯留施設

治水整備基本計画の推進

- ・浸水区域周辺の普通河川について整備基本計画を策定し、整備・推進を図ります。

調整池の整備

- ・低地で浸水が著しい区域の浸水被害を防止するため、憩いの場を兼ねた調整池を維持管理します。

農地の保全

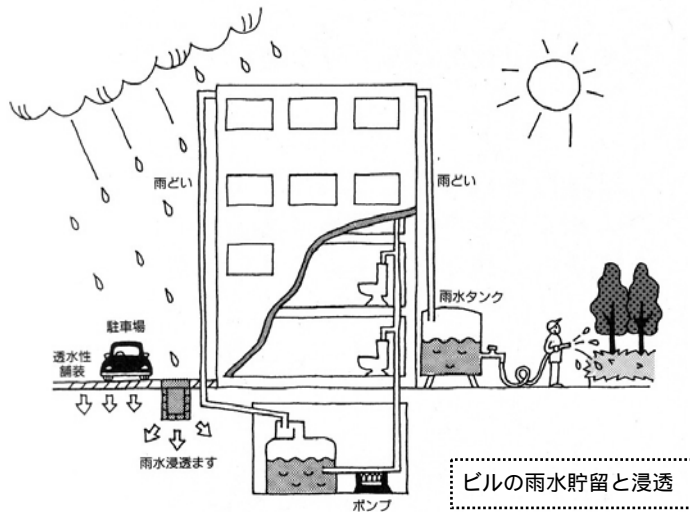
- ・農業振興施策と連携し、農地を保全することにより、保水・遊水機能を確保します。



6-3 雨水及び処理水の利用促進（水を何度も使う）

雨水利用の推進

- ・公共施設に雨水貯留施設を設置し、雨水をトイレや散水用の水として利用します。



家庭用小型雨水貯留槽の設置促進

- ・市民への普及啓発を目的として、家庭用小型雨水貯留槽の設置を促進し、そのための支援を図ります。

家庭用雨水貯留槽



6-4 雨水地下浸透の促進（水をしみ込ませる）

雨水貯留浸透事業の推進

- ・関係機関と協議の上、公共施設等の雨水貯留浸透事業を推進します。

開発時の雨水対策

- ・総合治水対策に基づく、雨水流出抑制対策を推進するため、各種開発規模に応じた指導基準に基づき、施設整備を促します。



雨水浸透ますの設置

- ・宅地内浸透のための雨水浸透ますの設置を促進し、そのための支援を図ります。



雨水地下浸透の推進

- ・歩道や公共施設の駐車場等の道路は、透水性舗装整備を推進します。
- ・道路整備の際に、浸透式側溝、吸込み槽、連結式浸透ます等を用いて地下浸透を推進します。

6-5 湧水地の調査及び環境整備等（湧水を復活させる） **重点**

湧水地モニタリング調査

- ・湧水の湧出量測定や新たな湧出地点の確認等、モニタリング調査を実施します。この際、市民参加による調査も行います。

湧水地周辺環境整備

- ・湧水地周辺を、市民が身近に接することができるよう、関係者と協議の上、環境整備を推進します。

保水涵養機能を有する緑地の保全と緑化の推進

- ・湧水地周辺や台地上などで保水涵養機能を有する緑地の保全と緑化の推進を行います。

湧水復活事業

- ・国が進めている湧水復活事業との連携について検討します。



左：八幡神社の湧水、右：弁財天の湧水

湧水集計表

	地形区分	今	昔		計
		湧水	湧水	自噴井戸	
A	坂戸台地（入間台地）	11	9	0	20
B	飯能台地（入間台地）	5	15	2	22
C	入間川扇状地	0	34	0	34
D	川越台（武蔵野台地）	7	24	1	32
E	不老川面（武蔵野台地）	1	1	1	3
F	寺尾台（武蔵野台地）	2	6	0	8
G	大井台（武蔵野台地）	0	5	0	5
H	荒川低地	0	5	27	32
計		26	99	31	156



平成9年度「今と昔の湧水調査」報告書より